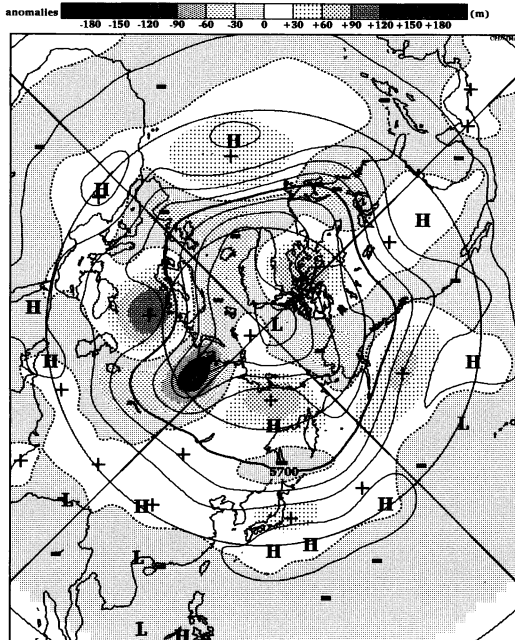


2001年7月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、東シベリア、日本付近、太平洋北部で正偏差、北アメリカでは北部と中部で正偏差、東部と西部には負偏差が分布した。ロシア西部付近にリッジ、西シベリアではトラフが月を通して持続した。偏西風はヨーロッパでは平年より強く、中央アジアの強風域は平年より南寄りで、中国から日本付近にかけては平年より強く北寄りだった。ブロッキング高気圧がしばしば見られたロシア西部や東シベリアで南北に分流していた。対流活動はインド北部、南シナ海北部、中部インド洋赤道域では平年よりも活発だった。一方、インド南部、マレー半島から南シナ海南部、インドネシア付近では平年よりも不活発だった。アジアモンスーンに伴う対流活動はほぼ平年並で、対流活発域は平年よりも北に偏っていた。フィリピンの東海上では対流活動が平年よりも活発で、日本付近では不活発という PJ (Pacific-Japan) パターンが明瞭だった。200 hPa 速度ポテンシャルの分布図を見ると、大規模発散域の中心はベンガル湾で平年に比べて西より、フィリピン付近で平年に比べて東よりとなった。SOI (南方振動指数) は -0.3 (暫定値) だった。



2001年7月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

世界の天候

① 東シベリアから中国の高温

月平均気温は東シベリアや東アジアでかなり高く、異常高温となったところも多かった。

② ロシア西部からヨーロッパ南東部の少雨

③ ヨーロッパ東部から中東の高温

ヨーロッパではポルトガルなど一部を除き月平均気温が高いところが多く、ロシア西部やヨーロッパ東部では異常高温となった。

④ ヨーロッパ北部・中部の多雨

フランスでは暴風雨により10人が死亡し、ポーランドでは洪水により20人以上が死亡したと報じられた。

⑤ 米国東部の低温

⑥ 米国中部の高温

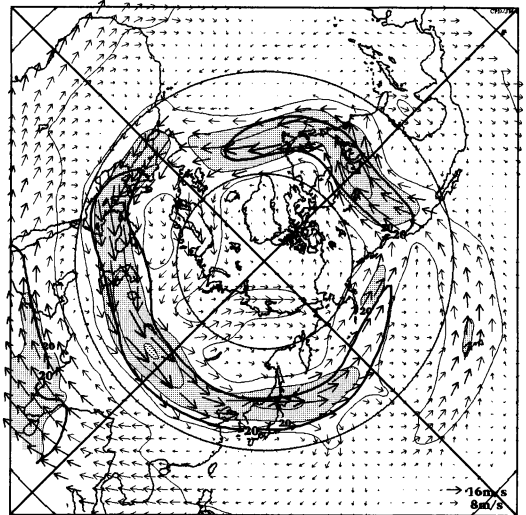
米国中西部では猛暑により死者20人以上が報じられた。

⑦ カリブ海周辺の高温

⑧ オーストラリア北西部の多雨

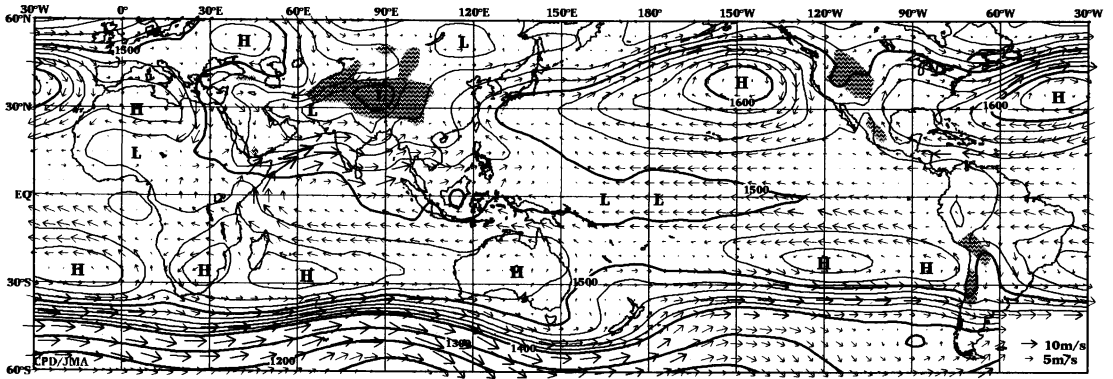
月降水量はオーストラリア北西部で異常多雨となり、オーストラリア東部からフィジーでも多かった。

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 古林 慎哉)

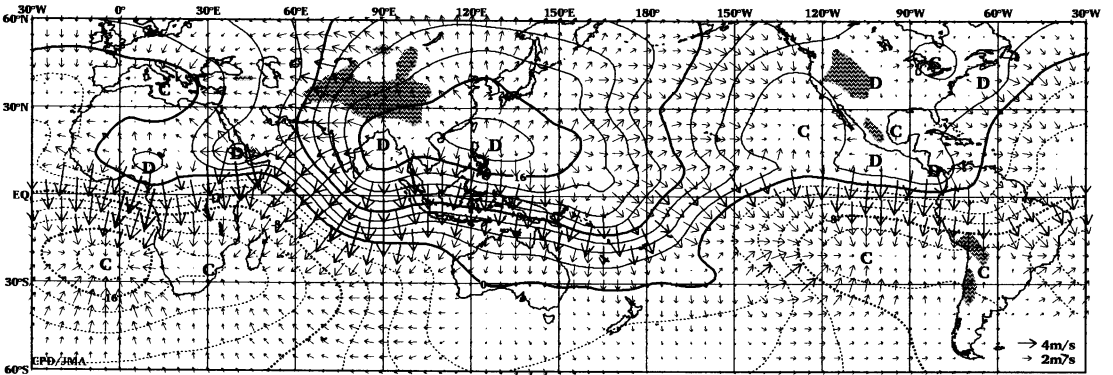


2001年7月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

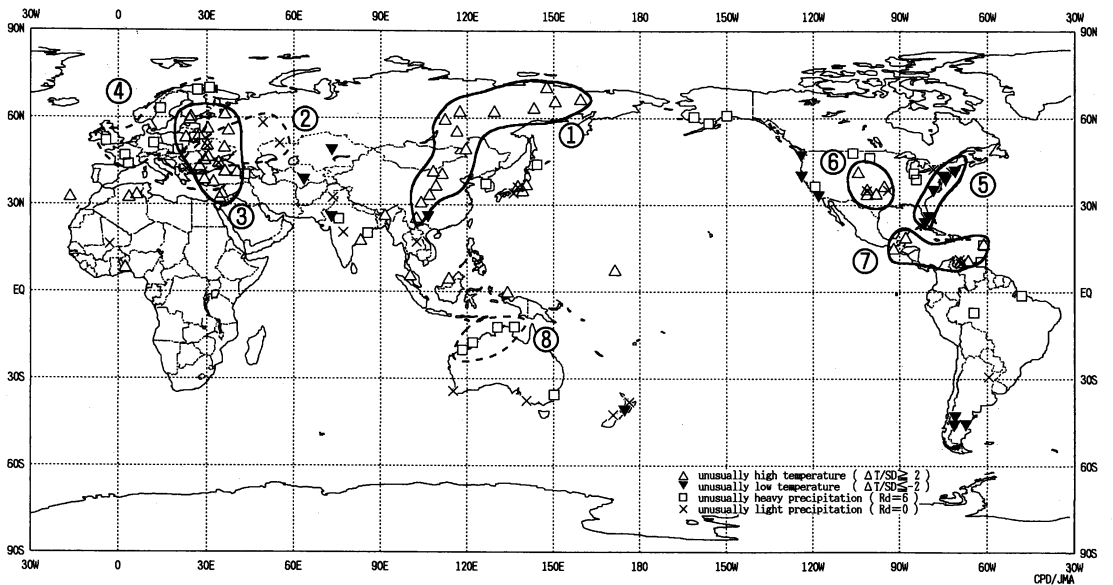
等値線間隔は10 m/s, 陰影部は20 m/s以上, 太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2001年7月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2001年7月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2001年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.